

漆芸美術館だより



《変容するかたち I》 邱 嘉文（金沢美術工芸大学大学院修了）

98

生新の時2023—漆芸の未来を拓く—

漆芸の綺羅星たち

公式ウェブサイトがリニューアル！

2023年度友の会会員募集中

展覧会開催スケジュールとイベントのお知らせ

2022年度寄贈作品紹介 他

2023年6月6日発行

生新の時2023 — 漆芸の未来を拓く —

会期 5月13日(土)～7月9日(日) *会期中無休

大学や大学院で漆工芸を学び、今春卒業および修了した作者の漆芸作品を展示する本展覧会は、2008年に始まり今年で15回目を迎えました。瑞々しく若い感性に溢れた作品は私たちに新鮮な驚きと発見をもたらしてくれそうです。緻密に作り込まれたものから壮大で迫力のあるものまで多彩な作品36点が出品されます。今回は出品作の中から3点をご紹介します。

鮮やかな赤が目を引く《変容するかたちI》(表紙)は、熱帯魚のベタ、特にそのヒレを創作のモチーフとしています。ベタには競争相手への威嚇や求愛行動をする際に、ヒレを広げて体を大きく見せる習性があり、この時に表面の模様や体色が変化します。本作はベタが全身のヒレを大きく広げた姿を、麻布を漆で貼り重ねる乾漆技法で表現しており、複雑な襞^{ひだ}によって生じた陰影が色に変化を与えています。作者はベタのヒレをただ美しいだけではなく、危機的状況や緊張感を伴って変化するものとして表現することで、現代に生きる私たちの姿の「変容」を作品に投影しています。

《乾漆合子〈遙かなる旅〉》(図1)は、雄大な自然の中で連綿と命を繋ぐ川魚をモチーフに制作されました。黒漆と朱漆のぼかし塗に朱合漆を施



図1 《乾漆合子〈遙かなる旅〉》
織田峻太郎 (富山大学卒業)



図2 《来幸十二支図》
中澤萌絵 (広島市立大学卒業)

して溜塗^{たためぬり}とし、呂色^{ろいろ}仕上げを行うことで、卵を宿した魚に想起された張りのある形を生かしています。長い旅路を繰り返す川魚の命のサイクル、その生命の輝きを内包した作品です。

色漆^{いろうるし}を塗り重ね、蒔絵技法との併用で制作された《来幸十二支図》(図2)は、新年に飾る干支飾りから発想を得た作品です。濃紺を背景に描かれた12匹の生き物たちは、巧みな筆遣いによって

毛並みや体表の質感が表現されています。瞳や装身具など随所に施された螺鈿^{らでん}がキラリと光り、アクセントになっています。色彩豊かな本作には、「見てくださった方のお守りになるように」という作者の思いが込められています。

会場にはこの他にも、豊かな感性に満ちた作品が揃います。ぜひ会場でご覧ください。

(福江里美)

漆芸の綺羅星たち

会期 7月29日(土)～9月24日(日) *会期中無休

日本伝統工芸展や日展の頂点に立つ重要無形文化財保持者(人間国宝)や日本芸術院会員たちの技と美はまさに綺羅星のようです。本展では当館のコレクションを中心に、日本の漆芸界最高峰と認められた作家たち30名の作品43点を展示し、その技と多彩な表現をご紹介します。

また、2020年に寄贈された伊藤裕司氏(2011年日本芸術院会員就任)の《赤富士》(美術館日より91号で紹介)、2022年に収蔵にいたった山下義人氏(2013年重要無形文化財「蒟醬」保持者認定)の《青藍蒟醬箱》(図1)など、近年のコレクションの拡充ぶりをお伝えする機会となります。

日本芸術院は、1919年文部省美術展覧会(文展)の美術審査委員会を母体とする帝国美術院が創設され、その後帝国芸術院、日本芸術院と改称し、現在まで芸術の隆盛に大きな役割を果たしてきました。第1部「美術」の会員は今も文展からの流れを汲み、日展における重鎮が多くを成しています。

1955年に重要無形文化財保持者の第一次認定が発表されて以来、漆芸界では67年間で23名の人間国宝が誕生しました。輪島で最初の人間国宝・前大峰氏(沈金)は、第二次認定を受けています。氏の作品《高原の曙額》(図2)は、金箔を粉に

した極めて細かい消粉を蒔いた金地の画面に、ハイマツやイワギキョウ・チングルマなどの高山植物と、中央の岩場に凜と立つ雷鳥が描かれています。表面を彫り、下の黒塗りを表して描画とする技法は墨絵の表現に肉薄し、繊細に表現されています。

前述の《青藍蒟醬箱》は、青の地に蒔絵による白漆とプラチナ粉で施した稲光が印象的な作品です。素地はヒノキの古材を用いた指物。蒟醬剣で文様を彫り、作者こだわりの青の色漆に、銀粉を薄蒔きして埋め込んで研ぐという作業を40回重ねています。これにより、鮮やかな青にも、深く奥行きのある青にも見え、様々な表情を楽しませてくれます。

本会期中は、県内外から輪島を訪れる方も多く、



図1 《青藍蒟醬箱》山下義人
2021年第68回日本伝統工芸展
石川県輪島漆芸美術館蔵

子どもから大人まで幅広く、巨匠たちの作品の数々をご鑑賞いただき、漆芸のもつ奥深い魅力にふれていただければ幸いです。(奥千代子)

▼講演会

《重要無形文化財とその保持者とは？

―「わぎ」を未来へ伝える仕組み―

日時 8月27日(日) 13時30分～15時

講師 原唯氏

(文化庁文化財第一課

工芸技術部門 文化財調査官)

会場 当館講義室

*要予約 聴講無料

*中止・変更となる場合があります。最新の情報は公式ウェブサイト等でご確認ください。



図2 《高原の曙額》前大峰
1951年第7回日展
石川県輪島漆芸美術館蔵

▼公式ウェブサイトがリニューアル！



石川県輪島漆芸美術館の公式ウェブサイトがリニューアルされました。デザインの一新を図り、当館の見どころにサクッとアクセスできます。輪島塗技術保存会による《夜の地球 Earth at Night》特設ページでは、6つの外国語によって輪島塗大型地球儀の魅力を解説しています。その制作工程をうかがう長編映像や迫力の画像とともに、輪島塗の技と美をご堪能ください。大人気の手作りプランのご予約も当ウェブサイトからご利用いただけます。本誌末尾のQRコードから、ぜひアクセスしてください。



▼わんじまTシャツ2023

工芸王国・石川を彩る伝統文化を、わんじまモチーフでちりばめました。これを着たら石川県の通になれるかも…。

ミュージアムショップまたはオンラインショップにて好評販売中です。ぜひチェックしてください。



裏

表

▼2023年度友の会会員募集中

「漆の文化や輪島漆芸美術館にもっと親しみたい」そんなご要望をお持ちの皆様、魅力的な特典満載の「石川県輪島漆芸美術館友の会」に入会しませんか。ご来館時に入会金を添えて入会申込書にご記入いただき、簡単にご登録いただけます。ぜひご検討ください。

主な会員特典

- 特典1 招待券が進呈されます。
- 特典2 展覧会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体割引となります。
- 特典3 相互割引提携館主催の展覧会入館料が、団体割引となります。「友の会だより」「漆芸美術館だより」ほか
- 特典4 美術館情報等の提供が受けられます。

会費

個人会員（1年） 1,000円

（有効期限：4月1日～翌年3月31日）

個人会員（2年） 2,000円

（有効期限：4月1日～翌々年3月31日）

家族会員 2,000円

代表者と生計を共にする2名以上のご家族でご入会いただけます。

（有効期限：4月1日～翌年3月31日）

賛助会員 5,000円

特に友の会の発展に協力する個人及び団体でご入会いただけます。

（有効期限：4月1日～翌年3月31日）



展覧会開催スケジュールとイベントのお知らせ

生新の時2023－漆芸の未来を拓く－

会期 5月13日(土)～7月9日(日)

イベント

わんじまたんざくの七夕かざり

会期 7月1日(土)～9日(日)

会場 エントランスホール*無料

展示替え休館 7月10日(月)～7月14日(金)

漆芸の綺羅星たち

会期 7月29日(土)～9月24日(日)

イベント

キッズ作品鑑賞会

日時 7月30日(日)

13:30～14:30

会場 展示室*参加無料

展示替え休館 9月25日(月)～9月30日(土)

第79回現代美術展 輪島展

会期 7月15日(土)～7月23日(日)

石川県内最大規模の公募展「現代美術展」の輪島巡回展です。

展示替え休館 7月24日(月)～7月28日(金)

しっふうどとう いま きゅうしつ
漆風怒濤—現在を駆け抜ける髹漆表現—

会期 10月1日(日)～11月26日(日)

漆塗りの根幹をなす技法「髹漆」—今日、多様な展開を遂げている、注目の作品の数々を展覧し、漆の本質的な魅力を余すところなく紹介します。

*入館料は展覧会によって異なります。詳細は当館公式ウェブサイトをご覧ください。

▼2022年度寄贈作品紹介

・輪島塗大型地球儀

「夜の地球 Earth at Night」及び都市
パネル／輪島塗技術保存会

輪島塗技術保存会寄贈

・黒漆塗食籠・山水家屋人物図漆絵飯器

・朱漆塗鉢・菊醬食籠・朱漆塗食籠

・朱漆塗食籠・菊醬合子・漆絵食籠

・黒漆塗食籠・菊醬食籠・漆塗盆

・朱漆塗皿・蓮弁形朱漆塗皿

・朱漆塗鉢・漆絵盆

・漆容器各種

・朱漆塗合子各種

・漆塗椀各種

・漆芸関連資料一式

以上、鈴木康子氏寄贈

・鳥の図沈金額／角倅三郎

天野靖子氏寄贈

・山多凶風呂先屏風／坂下直人

坂下静香氏寄贈

・森の散歩道「梟」／小西啓介

小西啓介氏寄贈

・沈金額／木本溪仙

松村ふみる氏寄贈

・墨流蒔絵硯箱／豊平翠香

東京都豊島区K・E氏寄贈

・巴文蒔絵盆／奥村霞城

・彫漆五清銘々皿／稲垣豊秋

・竹文盆／吉田醇一郎

・筋目挽黒漆塗高杯／渡辺宗己

以上、匿名希望個人寄贈

・縁黒朱糸面取鉢／佐藤阡朗

大隅雅子氏寄贈

ご支援賜りました皆様には感謝申し上げます。



《森の散歩道「梟」》小西啓介
2014年第24回日工会展

アクセス



- のと里山空港から車で約20分
- 金沢市内からのと里山海道利用で約100分
- 金沢駅から北鉄奥能登バス「輪島駅前」下車約120分
- 「輪島駅前」から徒歩約15分またはのらんけバス海コース「漆芸美術館」下車

開館時間 9:00～17:00
入館は閉館の30分前まで

休館日 展示替え休館日
年末休館（12月29日～31日）

石川県輪島漆芸美術館

〒928-0063
石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788
FAX 0768-22-9789
<https://www.art.city.wajima.ishikawa.jp>

漆芸美術館だより No.98
令和5年6月6日発行

